

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

## 2015(27)年 週 報

4月26日  
第4聖日  
第3401号

「神の家族」

聖  
言

こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。エペソ2:19

礼拝の恵み 第二〇章  
第八節 礼拝の障害  
第三節 批評的精神  
信者の心のなかに他人の過ちを見つけたという態度を育成することは、礼拝にとつては致命的である。クリスチャンの心が神によって占められず、仲間の信者たちによって占められているからである。こうした批評的な心のわくは最初は小さいである。うが、それが無批評に、はばまれることなく放任されたまま進行すると、しまいにはその精神がかれの全生活にしみ渡ってしまう。こうしてその心の中に人間的親切というミルクは乾かれ、その眼はくらみ、その理性はゆがみ、こいしてその人は神にも仲間の信者にも無用のものとなる。  
ある人が事物を徹底的な批評心という眼鏡をとおして眺めるときは、彼の目にはすべての事物がゆがんで映る。他人の行動に途方もない動機を邪推する。なにかをほめようとして眺めるのではなく、いつもなにかをけなそうとして眺める。不幸にも、批評家というものは普通は自分の多くの不完全や欠陥には全く盲目である。自分には与える用意のないものを他人から要求する。兄弟の目のなかの塵を一心に取り除こうとして、その塵が自分の目のなかの巨大な梁の影が映っているに過ぎないことに気づかない。他人の場合には無礼と呼び、自分の場合には率直、誠実と言う。他人の場合には悪気であるものが、自分の場合には義憤となる。(礼拝ギブス)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

## 「両者が一つになる」

「そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあつて望みもなく、神もない人たちでした。」(エペソ二ノ一二)

パウロが「思い出して」(二ノ一二)ほしいと言っているのは、エペソの人々は「肉において異邦人」であつたということである。彼らは以前は「約束の契約」(二ノ一二)に關しては全くのよそ者であり、「この世にあつて望みもなく、神もない人であつた。」このように「自分の罪過と罪との中に死んでいた者」(二ノ一二)をあわれみ深い神はイエス・キリストにあつて生かしてくださつたのである。肉における異邦人クリスチャンは、常に自分の現在と過去を比較することにより、神の恵みの偉大さを認識し、へりくだつて神と人とに仕えることを学ぶべきである。しかし、こう書いてあるパウロは、イスラエルと呼ばれたユダヤ人が、口では神を敬い、律法に従つていふと言いながら、心は神から遠くはなれていふ事実をだれよりもよく知つていた。そのため彼は同胞であるユダヤ人が救われることを何よりも強く祈り求めていた。パウロは自分自身に關しても「私はその罪人のかしら」(一テモテ一ノ一五)であるという自覚が常にあり、「使徒の中では最も小さい者」(一コリント一五ノ九)というへりくだりを持つて主に仕えていた。なぜなら彼は聖書の御言葉の無理解から「神の教会を迫害した」者だからである(一コリント一五ノ九)。ユダヤ人たちは、自分たちの先祖にはアブ

ラハムがいる、自分たちには神の約束があると言いがら、実際には「約束の契約」を守らず、神のみこころに背いた生活をしていた。それにもかかわらず、彼らは自分たちの置かれた立場を誇り、他の民族を「異邦人」と呼んで、心の底では、神のない民として彼らを蔑んでいた。確かに異邦人は「神もない人たち」で「キリストから離れ」ており、そのままでは望みのない人であつた(二ノ一二)。しかし、今や神のご計画に基づいて、キリスト・イエスの血により、遠いもの(異邦人)も近い者(ユダヤ人)も共に神との和解にあずかせていたのだのである(二ノ一三)。それは、キリストがご自身の死によつて「隔ての壁」を打ち壊し、「敵意」を排除してくださつたからである(二ノ一四、一五)。こうして「二つのものを一つにする」ご計画は実現したのである。ユダヤ人も異邦人も罪深い者であり、偏見と高ぶりに満ちていた。このような両者を「一つのからだ」とするために支払われた代価は神の御子の十字架の死である。この方法によつてのみ、神と罪人との和解は成立し、人と人との間の平和も確立できる。「敵意は十字架によつて葬り去られました」(二ノ一六)。今では、キリストにおいて、ユダヤ人もなければ異邦人もない。ただあるのは「新しいひとりの人」(二ノ一六)であり、これは御霊による聖徒、神の民であり、兄弟なのである。

(新聖書講解シリーズエペソ書より)

二〇一五年四月一日午後七時 祈祷会 山本牧師

「エジプトに対する宣告③」(エゼキエル連講五〇回)

「人の子よ。エジプトの王パロと彼の大軍に言え。あなたの偉大さは何に比べられよう。見よ。アッシリヤはレバノンの杉。美しい枝、茂つた木陰、そのたけは高く、そのこずえは雲の中にある。」(エゼキエル三一ノ

二、三)

「神の国は、どのようなものと言えよいでしょう。何にたとえたらよいでしょう。それはからし種のようなものです。地に蒔かれるときには、地に蒔かれる種の中で、一番小さいのですが、それが蒔かれると、生長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が巣を作れるほどになります。」(マルコ四ノ三〇〜三二)。エジプトは世界を征服した偉大な国であったが、滅びる。世界の歴史は国の興亡である。しかし、イエスの建てた神の国は最初は小さくてもやがて世界のいたるところで影響力を持つ、永遠にわたる国である。

ペンテコステ(聖霊降臨)聖会

日時 五月四日(月)  
「聖霊の時代」 午前一〇時 聖会 山本牧師  
「霊に属する者」 午後二時 聖会 足達牧師  
「イザヤの聖潔」 午後七時 聖会 西田牧師

本部五月行事計画

一日(金) 楽しい月一回の祈り 午後一時  
三日(日) 礼拝後 役員会 庄司家感謝会  
四日(月) ペンテコステ聖会 午前一〇時、午後二、七時  
七日(木) 納骨堂掃除 午前一〇時  
一五日(金) 愛の園総会 午前一〇時  
一七日(日) 前半期、合同召天記念献金約束日、  
一七〜一九日説教塾 宝塚売布御受難修道女会  
二六日(火) リバイバル牧師会 午後一時 東部教会  
※ 会計役員 尾瀬姉 小段姉 大内姉

五月の召天會員

三日 長田典雄兄 四周年  
四日 後藤 昇兄 三六周年  
八日 北村文子姉 一八周年  
十四日 村山植吉兄 三五周年  
十五日 山本よね姉 二四周年  
一七日 三上 誠兄 四周年  
二一日 北田昌民兄 五五周年  
二五日 桑田たけよ姉 二五周年  
二八日 梶原孝子姉 五四周年  
二九日 梶原又エ姉 二七周年  
三十日 三永くら姉 七二周年  
三十日 松尾定子姉 四五周年

聖書通読完三回目完了

旧約、新約通読

開始 二〇一四年三月一日  
完了 二〇一五年四月十八日  
共同通読 庄司姉、小段姉、山本  
食事と午後のティータイムの前に一章づつ読んでいます。